

日本のキャラクターたち 中国で頑張っています

北京事務所

北京のお店で、日本のキャラクターやアニメのグッズ（ぬいぐるみ、フィギュア、文房具など）が販売されており、中国人が購入する姿を目にします。また、日本語を勉強している中国の大学生・院生と話しているときに「なぜ、日本に興味を持ったの？日本語を勉強しようと思ったの？」とたずねると、「日本のアニメを見て興味を持ちました。」という答えが返ってくるのが圧倒的に多く、中国における日本のキャラクターやアニメの人気の高さを感じます。

そこで、数多くのキャラクターの中から、多くの中国人の皆さんが知っている「ドラえもん」の中国での人気と現状、また、日本の地方自治体のキャラクター（ゆるキャラ）の活躍ぶりを紹介します。

ドラえもん

ドラえもんは、中国（香港を除く）では 1991 年にアニメ放送が開始、コミックの正規版が 1992 年に出版されて以来（1970 年代には海賊版が既に出回っていましたが）、幅広い世代に人気があります。2007 年には、日本のアニメとして初めて中国で映画も上映されました。ドラえもんは、中国語で「哆啦 A 梦」と呼ばれています（1997 年以降、正規版等は原作者サイドの要請によりこの呼び方に統一。以前は「小叮当」「机器猫」とも呼ばれていました）。

昨年はドラえもんの誕生日前 100 年（ドラえもんの誕生日は 2112 年 9 月 3 日）ということで、日本でも様々な企画が行われましたが、ドラえもんの人気が高い中国でも、昨年 9 月 26 日から北京のショッピングモールで「ドラえもん誕生日前 100 年展」が開催されました。展示会は、9 月 15 日からの開催予定が反日デモ等の影響で延期され、開催が危ぶまれたものの、無事に開催されました。



タイムマシンの展示

私は、この時期に開催されたドラえもんの展示会に中国人はどういう反応を示すのかに非常に興味があり、休日に会場へ観に行きました。会場には、ドラえもんをはじめとする登場キャラクター、タイムマシンなどの模型、パネルや日本で公開された映画のポスターなどが展示されていて、中国人の家族連れや若い世代で大変賑わっており、タイムマシンの模型と一緒に記念撮影する人の姿も多く見受けられました。キャラクターを愛する気持ちは国の問題とは全く関係なく、多くの中国人がドラえもんを大好きな気持ちが、この時期にもかかわらず展示会を開催させたのかもしれないと感じました。



のび太の部屋も再現

今年も、4 月から 6 月まで、上海で「ドラえもんのひみつ道具 100EXPO」が開催され、100 体の等身大ドラえもん像が展示されていました。一部の子供たちが、いたずらでドラえもん像を傷つけ

る問題もありましたが、連日、多くの人々で賑わっており、ドラえもんは、今日も笑顔で中国人の皆さんに夢を与えています。

日本のゆるキャラたち

日本で大人気のゆるキャラたち。日本国内ではブームからすっかり日常生活に定着した感もありますが、中国では、各自治体が中国で主催・出展するイベントにゆるキャラが登場しているほか、今年4月24日に在中国日本国大使館で開催された「木寺大使就任レセプション」に熊本県の営業部長「くまモン」と奈良県のキャラクター「せんとくん」が登場しました。同大使館の公式行事にゆるキャラが登場するのはこれが初めてです。



せんとくんの等身大フィギュアと
ひこにゃんのパネル

また、国際交流基金が主催している海外巡回展「キャラクター大国・日本」が、今年の4月9日から5月4日まで北京で開催されていました（上海で2010年、広州で今年6月に開催）。展覧会では時代ごとの国民的キャラクターを画像やパネル・模型などの形式で展示しながら、キャラクターたちが登場した背景が紹介されていましたが、ウルトラマン、ガンダム、ピカチュウ、キティちゃんの展示の他に、ゆるキャラの展示・紹介コーナーもありました。コーナーには、「せんとくん」と東京都杉並区の「なみすけ」の等身大フ

ィギュア、ゆるキャラの第一人者である滋賀県彦根市のキャラクター「ひこにゃん」の紹介パネルなどが展示されていました。

日本のゆるキャラの中国での認知度ですが、中国でも「くまモン」の人气が高く、私の知り合いの中国人学生に聞いてみても「くまモンは有名で、『かわいい』と人気があります」と言っています。先述の大使館でのレセプションでも、多くの来場者に囲まれ一緒に記念撮影をしていました。また、レセプションと同日の晩に北京熊本県人会主催のイベントにもゲストで登場し、北京在住の熊本県出身者のメンバーの他に、くまモンファンの中国人も参加し、くまモンと交流を深めていました。くまモンは、今後も県人会のイベントに不定期に登場するとのことです。



くまモンと北京熊本県人会の皆さん

(写真提供：北京熊本県人会)

おわりに ～ゆるキャラから地域発信？～

日本のキャラクター・アニメが大好きな人が多い中国では、日本のサブカルチャーをテーマにしたイベントも行われており、多くの人々が集まります。先日、中国在住の日本人の方から「日本の地方自治体の皆さん、観光展や物産展に出展される以外にサブカルチャーのイベントに、ゆるキャラと一緒に参加されてはどうか？自治体の皆さんは、ゆるキャラをサブカルチャーに位置づけ、他のアニメやコスプレのキャラクターと一緒に場に出ることには抵抗があるかもしれませんが、集客力や影響力（口コミ）はすごいものがあ

り、そのイベントでゆるキャラが注目を集めると、それがきっかけで自治体の認知度もあがり、『あのキャラクターに会うために、〇〇県に行きたい』となるかもしれないですよ』と言われ、その場にいた他の方も含め、その話題で盛り上がりました。

実際、熊本県の場合、昨年の夏から上海事務所にくまモンが常駐して、中国国内のイベントに参加しており、自治体の微博に登場している他のキャラクターもいるなど、実際、海外向けのPRに参画しているキャラクターが増えてきています。

ただし、人気や知名度が上昇すると中国で必ず問題になるのが「ニセモノ」です。サンリオの正規ショップや許可を取っているキャラクターグッズもありますが、やはり多くの「ニセモノ」や「無許可商品」を見かけます。



実際に見かけたニセモノや無許可商品

くまモンも中国での人気上昇につれて、早くもニセモノが出回っていますので、この点については注意が必要です（注意しても出回るのですが）。

現在、日本で「アニメの聖地を巡るツアー」が続々登場し、海外からの参加者も出てきています。今後、中国国内でブレイクするゆるキャラが続々登場すれば、中国人向け「日本ゆるキャラ巡りツアー」が登場し、ゴールデンルートと並んで人気が出る日が来るかもしれません。

(水越所長補佐 京都府派遣)